




【基本施策の目的】

市民一人ひとりが犯罪、交通事故や消費者トラブルなどに巻き込まれることなく安全で安心して暮らせるまちをつくりまします。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	基本施策の指標値は、目標としている方向に向いているため、引き続き、犯罪抑制に関する啓発活動、交通安全に関する啓発活動、各種相談窓口の開設など従来どおりの事業を進めていく予定である。 同一分野内における他の基本施策との比較の結果、同一分野内における今後の経営資源の配分の優先度が普通と判断した。


【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
犯罪発生率	件/千人	実績	14.9 (H24年)	13.1	12.1	11.5	10.9	小牧警察署、企業及びボランティア団体等と連携した防犯啓発活動の実施や、防犯灯の設置・維持管理に係る費用の補助、自宅に防犯設備等を購入し設置した際の補助や防犯カメラ設置に対する補助などの相乗効果によるものと考えられる。	今後は犯罪発生状況に対応した啓発活動等の実施や、防犯カメラ設置に関する補助による防犯カメラ設置数の増加、防犯灯の全灯LED化により、より一層犯罪の少ない安心して生活できるまちを目指す。
		目指す方向性							
交通事故発生率	件/千人	実績	7.3 (H24年)	6.5	5.3	5.4	4.9	平成29年度は、交通事故発生件数が大幅に減少した。	高齢者が加害者となる事故が増えており、運転免許の自主返納の呼びかけを実施していく。また、自転車加害者となる事故も増えていることから、交通安全キャンペーンや交通安全教室などを通じて、啓発活動を実施していく。
		目指す方向性							
相談満足度	%	実績	72.5 (H26年度)	/	78.9	71.0	80.9	指標の値は全体としては目指す方向性のおおりの傾向にある。また、H28年度に減少をしているが、それらの要因は指標値に関連するデータがアンケートの結果によるもののため変動するものである。	指標値はH29年度の指標値から目指す方向性のおおりの傾向にあると分析する。今後の対応としては多くの市民に相談窓口を利用してもらい不安を解消することにより安全で安心して暮らせるまちをつくるため、相談窓口を継続する方針である。そのために、相談日時や場所の周知・広報に努めて行く方針である。
		目指す方向性							

【施策推進事業の考え方】

<p>経常事業</p>	<p>削減に関する具体的な考え方</p>	<p>・防犯対策事業 平成30年度から31年度にかけて、市内にある防犯灯の状況を調査し、全てをLED化する。それにあわせて、行政区で管理している防犯灯を市へ移管し、市での一括管理に変更する。 防犯灯の設置費用がスケールメリットにより削減され、全ての防犯灯をLED化することで電気料金も削減できる。</p>
<p>実施計画事業</p>	<p>資源投入の考え方</p>	<p>・防犯灯のLED化 平成30年度に現状把握のための調査を実施し、平成31年度に蛍光灯タイプの防犯灯をLED化していく。</p>

展開方向1	名称		防犯意識を高めます					方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的		〇地域や各家庭、幼児から高齢者まで市民一人ひとりの身近な犯罪に対する備えや自主的な防犯活動を支援します。						
	所管課		市民安全課						
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度		
防犯に対する備えをしている市民の割合	%	実績	38.5	33.5	33.2	52.3	50.7	防犯教室やキャンペーンによる防犯の呼びかけや、自宅に防犯設備等を購入し設置した際の補助を実施しており、市民の中に防犯意識が浸透してきていると考える。	引き続き防犯に関する啓発活動等を実施し、防犯知識の浸透を図る。
		目指す方向性	➔						
防犯教室の参加者数	人	実績	501	3,320	2,647	6,547	2,176	平成28年度は高齢者に対する特殊詐欺の被害が増えたこともあり、寿学園や敬老会での啓発活動を集中して行ったが、平成29年度は特殊詐欺被害が落ち着いたこともあり、敬老会での啓発活動を行わなかったため、参加者数は減少している。	引き続き様々な機会において防犯啓発活動を実施する。
		目指す方向性	➔						
展開方向2	名称		交通安全意識と交通マナーを高めます					方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的		〇歩行者、自転車、自動車がそれぞれの立場で交通マナーと交通ルールを守り、安全に安心して共存できる交通環境を確保します。						
	所管課		市民安全課						
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度		
交通マナーを守って生活している市民の割合	%	実績	85.7	84.0	83.5	83.6	85.7	交通安全教室やキャンペーンなど、様々な事業で交通安全を呼びかけており、交通マナーを守って生活している市民の割合は高くなるものと考えられる。	引き続き、交通安全教室などでマナー向上や交通事故撲滅へ向けた啓発活動を実施し、意識の向上を図る。
		目指す方向性	➔						
啓発事業参加者数	人	実績	4,249	19,075	14,051	10,207	10,401	子ども・高齢者・企業に対する交通安全教室の実施や、交通安全キャンペーンの実施により、広く市民に交通安全を呼びかけている。 また、申し込みにより出前講座も行っているが、申し込み状況により、参加者数は増減している。	引き続き、交通安全教室や、交通安全キャンペーンの実施により、広く市民に交通安全を呼びかけていく。
		目指す方向性	➔						

展開方向3	名称	相談体制を充実します							方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容
	目的	○市民が1人で不安や悩みを抱え込まずに、安心して暮らし続けられるよう適切にサポートします。 ○消費生活に関する市民の知識を高め、複雑化する消費者トラブルを未然に防ぎます。								
	所管課	市民安全課								
指標	単位	区分	基準値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度			
相談によって不安が解消された市民の割合	%	実績	50.6 (H26年度)		61.4	55.3	65.4	<p>全体としては目指す方向性のおおりの増加傾向にある。要因としては、アンケートから専門家に相談することにより不安が解消したと考えられる。指標は、相談を受けた人の中で解消できた割合であり、不安や悩みを抱え込まずに生活できている。</p>	<p>今後の見通しは指標値のデータがH29年度の指標値から目指す方向性のおおりの増加傾向にあると分析する。今後の対応としては引き続き、各種相談事業を実施し、市民の不安や悩みを解消できるよう努めていく。</p>	
		目指す方向性								
相談件数	件	実績	2,617 (H26年度)		2,369	2,247	2,081	<p>指標である相談件数は、目指す方向性とは逆に減少傾向にある。実際に市で実施している相談事業に相談した市民の数であり、全国的に見ても相談件数は減少傾向にあり、要因としてはインターネットなどで各種相談が対応していることが考えられる。そのため、整合性は取れていると考える。</p>	<p>今後の見通しは、市民が相談を受けた件数であるため、相談はインターネットなどの普及に伴い減少することが予想される。しかし、受け皿としての相談窓口は必要不可欠なため、課題である相談体制の充実については、今後も各種相談窓口の周知について継続して取り組んでいく予定であり、指標を継続し、指標値の改善を図っていく方針である。</p>	
		目指す方向性	